

今後の市民参加について

(中央公民館周辺エリア・小川駅周辺エリアの公共施設の複合化等について)

1 目的

公共施設マネジメント推進計画では、施設の更新等を行うための基本計画（以下、「基本計画」という。）策定を市民参加で進めることを掲げている。市民のニーズを把握し、基本計画策定の基礎資料とするために市民参加を行う。

2 構成（全体）

多様なニーズを把握するため、以下の5つの手法を組み合わせ、市民参加の全体像を構成する。なお、市民参加によるニーズ把握は年度末までを目途とし、平成31年8月予定の市民意見公募（パブリックコメント）手続を経て、平成31年10月の基本計画策定に向けて取り組む。

(1) 手法

① 中央・小川デザインカフェ

市民等のニーズを効率的・効果的に把握するため、ワークショップ形式で行う。（詳細は3参照）

② 利用者・利用団体ヒアリング

利用者・利用団体にヒアリングを行い、既存施設に関する課題や今後のニーズを把握する。利用者・利用団体については、効率性を考慮し、10月から12月頃にかけて施設ごとに2回程度、利用者・利用団体に周知し、ヒアリングの場を設ける予定である。

③ 個別ヒアリング

施設の入居団体、施設の近隣の活動団体等に出向き、話を伺いニーズを把握する。平成31年3月まで、随時実施する予定である。

④ アンケート

学校、施設、企業等にアンケートを持参するなど実施する予定である。アンケートを行うことで、年代や職業など幅広いニーズ把握が期待できる。

⑤ 出前授業

受入れ可能な小学校・中学校等に出前授業として出向き、少子高齢化等に伴う公共施設マネジメントの取組の話をし、「次の世代の公共施設づくり」に向けた市の取組への興味を喚起し、ニーズを把握する。

(2) 名称

市民と意識を共有し、効果的に市民参加を進めるため、市民参加の名称を定めるものとする。各手法を束ねる市民参加の総称は、「中央・小川デザインプロジェクト～次の世代の施設を考えよう～」とし、ワークショップ形式のものを「中央・小川デザインカフェ」とする。

「中央・小川デザインプロジェクト～次の世代の施設を考えよう～」には、中央公民館周辺エリア、小川駅周辺エリアといった地理的表示により検討対象地域を明確にしつつ、「デザイン」には基本計画策定とい



う新しい施設へのビジョンを「設計」する意味合いを含めている。

また、ワークショップにおいては、意見やアイデアを出しやすい環境づくりが肝要となることから「カフェ」と名付けている。

3 ワークショップ形式

(1) 検討過程

ワークショップ形式をどのように進めていくか検討を重ね、以下の点に留意した。

- ① ニーズ把握が主眼であり、市の基本計画策定の基礎資料とすること。
- ② 市民が参加しやすい環境を整えること。
- ③ 理解が深まるプログラムにすること。

(2) 回数

14回予定

※意見交換会でも市民参加について意見が多かったことから、最初2回分（9月30日、10月8日）については、丁寧な導入を意識し、本編に入る前に今後の進め方等の説明と、興味を喚起することを目的として「準備会」を開催する。

(3) 構成

異なる地域性への配慮及び市民参加を丁寧に進めるため、中央公民館周辺エリアと小川駅周辺エリアに分けて構成する。

また、参加しやすい環境及びメリハリをつけた展開を行うため、各エリアを2部構成とする。

- ① 中央公民館周辺エリア 6回（第1部 3回、第2部 3回）
- ② 小川駅周辺エリア 6回（第1部 3回、第2部 3回）

(4) 対象者

対象者は、以下の2点の要件を満たす方とする。

- ① 在住、在勤、在学、市内で活動する方

小平市の公共施設に関する話題であり、市民等を対象とする。なお、目標に関する意識を持って頂くため「次の世代の新しい公共施設づくり」というテーマでの考えを記載して頂く。

- ② 各エリア第1部・第2部両方もしくはどちらか全日程（各3回）に参加できる方

ただし、参加しやすい環境整備の観点から、以下の点について例外を認める。

ア 日程の途中からの参加も認める。

イ 欠席も認める（あらかじめ予定された欠席も含める）。

(5) テーマ・スケジュール

基本計画策定のための基礎資料とするため、「機能配置」、「運営」、「市民広場（小川駅西口公共スペース）」等に関する話題（テーマ）を設定する。各話題を設定しつつ第1部は11月から12月まで、第2部は1月から3月まで行う予定とする。

(6) 参加者層について

幅広に多様なニーズを把握するため、多世代及び障がい者等の参加を促すための広報やゲストスピーカーによる参加で行う。